

平成28年3月17日

能美市議会議長
米田 敏勝 様

教育福祉常任委員会
委員長 倉 元 正 順

能美市議会教育福祉常任委員会 行政視察報告書

表題の件につき、下記の通り、ご報告いたします。

記

- 1、期 間；平成28年2月3日（水）～5日（金）
- 2、視察先；① 笠松町役場（岐阜県）
② 江東区立第二亀戸中学校（東京都）
③ 練馬区立北原小学校（東京都） 平成27年度研究発表会
- 3、目 的；道徳教育について
- 4、参加者；倉元正順委員長、近藤博副委員長、山口慧子委員、東正幸委員、
田中策次郎委員、仙台謙三委員、荒木達人学校教育課長

視察目的

「道徳の教科化」に伴い、今求められる「心身ともに健やかな徳のある人間を育てる」道徳教育の充実における学校、家庭、地域が協力して「社会総がかり」で取り組むなどの役割などの視察による今後の指針づくりについて

2月3日（水曜日）

★ 笠松町役場

田島副議長より、笠松町の歴史、地理等の、川部副市長からは笠松町の「選べる70品目のふるさと納税」などの歓迎挨拶を皮切りに、パワーポイントによる「道徳のまち笠松」を教育文化課の加藤さんより説明を受けました。

■ 視察研修報告要点

1 ; 現在 5 期目に入る広江町長がハード面の行政だけに頼るのではなく、ソフト面の充実が必要ということ、すなわち「まちづくり」は「ひとづくり」であることで始まり、平成 19 年「笠松町道徳のまちづくり条例」を制定し、笠松町における道徳教育の一層の振興を図り、**地域、家庭、学校**が一体となって、道徳的風土及び人づくりを進めるとした。

2 ; ①きれいなまちづくり推進部会、②ささえあうまちづくり推進部会、③あいさつのまちづくり推進部会の各 8 名による計 24 名の推進委員が方向性や活動の推進をし、オレンジ T シャツを制服とした。(オレンジ色は心に情熱を植え付けるということから)

3 ; 中学生からオレンジ T シャツを着てボランティア活動をしたいと申し出があり、町が活性化してきている。

4 ; 各推進部会による積極的な活動紹介をされましたが、特に感動したのは 3 世代交流のために「会い・Eye・挨・ラジオ体操」の推進である。終了後じゃんけんゲームをして更に挨拶をし、顔見知りになるようにしている。

5 ; 笠松町の良さに気づき、郷土愛を育み、自信を持って、生きる力を育てるために、毎年「いいね大賞、いいね賞」を表彰・常掲しており、年に一度講演会を実施している。最後に地域代表である葛谷推進会長から笑顔で「ありがとう」と言える思いやりのあるまちづくりを目指しているということで締めくくっている。

6 ; トップダウンで方針を決め、ボトムアップで機能向上を図っている活力ある典型的な事例であり、条例制定後、毎回アンケートを実施し、初めて条例の浸透率が 50 % を超え、オレンジ色の定着率も浸透した。

7 ; 中学生のボランティア参加率が高く、岐阜工業高校と同時にボランティアスピリット賞を受けた。

8 ; 事前の質問書による質疑・討論が約 30 分以上にわたった。(内容は別紙)

★ 笠松町歴史未来館

榊光製作所の松原会長から 3 億円の寄付を頂き歴史館を作っています。

木曾川、長良川、揖斐川の濃尾 3 川の自然災害を繰り返し経験してきた歴史を認識し、伝統を守り続け、特に「トンボ天国」維持のためには自然に感謝し守り続けていこうという方向性がくみ取れました。何か水害の多かった我が町の歴史にも似通っていました。

2月4日(木曜日)

★ 江東区立第二亀戸中学校

・長南校長より、平成 10 年から東京都が道徳教育に力を入れており、第二亀戸中学校の平成 27 年度学校経営計画の概要説明がありました。特に、強調されておられたのは、「自分とはどういう人間なのか」「自分らしく生きるとはどのような生き方なのか」を追求し、自らの生き方を自己決定できる生徒の「自分探し」である。一方、お台場などを持っている

ため、2020年東京オリンピック・パラリンピックでは江東区は総合会場となり、「人情とスポーツの熱い江東区」の説明もされております。

・菅教員の担当する1年1組で、羽田空港で働くグランドスタッフの太田さんとグランドハンドリングスタッフの早川さんの二人の働き方による「勤労」というテーマで道德教育の授業参観をしました。

・授業終了後、校長室で事前質問による道德教育のあり方の質疑・討論をしました。

(内容は報告要点に記入)

■ 視察研修報告要点

★授業で注意すること。

- ・自分の考えを深め、自己を見つめる発表をし、3回ミーティングさせ、他人の意見を聞き更に考え方を深めていくこと
- ・全員に発表させること。
- ・ジェット機の音や冷たさの加減などで氷に触らさせるなど疑似体験をさせている。
- ・教え込みにならないように、考えさせ、一緒に考えること。
- ・ワークシート記入時にBGMを流すようにしている。
- ・「気高く」などの抽象的な言葉では理解不能になるので質問時には注意する。
- ・ワークシートを3回使用するが、その都度に配布する。一挙に3枚は配布しないこと。
- ・クライマックスの時間帯が取れるような時間配分ができること。

★その他

- ・授業があやふやにならないように、ワークシートは校長にまで届くようにしており、朝礼の内容にもなっている。
- ・宿題として、道德プリントに保護者の意見も書いてもらうようにしている。
- ・挨拶などにおいては100%できていることを目指す。大人が挨拶しなくても自ら挨拶ができることを目指す。
- ・本日の視察会においても、地域代表の方が見えられており、普段から地域の方々との協働が大切である。いじめにおいても「地区公開講座」で協力されている。

・「こうとう学びスタンダード」を力説し、一所懸命に取り組んでいます。

持ち物	前日に必要な学友用具を準備します。
着席	授業の始まりの時間を守り、席につきます。
挨拶	授業の始めと終わりにあいさつをします。
姿勢	背筋を伸ばした姿勢で座ります。
話し方	声の大きさを考えて、ていねいな言葉づかいで話します。
提出物	提出期限を守ります。
家庭学習	自ら計画を立てて、家庭学習に取り組みます。

2月5日（金曜日）

午後からの視察のため、午前中は東京ドームシティプリズムホールでの「いしかわ伝統工芸フェア」開会式に出席し、能美市ブースや他のいしかわ工芸品のブースを見学した。

■ 練馬区立北原小学校 平成 27 年度研究発表会

・小学校1年生から6年生まで各3クラス計18クラスが一斉に13時30分より45分の道徳授業を開始し、各委員が自分の希望するクラスを中心に参観した。

・平成26・27年度 文部科学省国立教育政策研究所学習指導実践研究協力校の研究発表会であり、研究主題は「豊かな心を持ち、かかわり合い生活する児童の育成」とし、テーマは①心が引かれる、②自分の思いや考えを表す、③考えを深め合う魅力ある道徳の授業をつくることである。

・東京はもちろん、全国から400人前後の視察で、道徳教育への関心度合いの大きさに驚かされた。

■ 視察研修報告要点

- ・豊かな心を持ち、かかわりのある、相手の立場に立って考えられる児童の育成
- ・主体的に学習し、魅力ある資料に関心を持たせ、児童の思考を促す発問づくり
- ・学校、地域、家庭などとかかわり合いを持たせ、または隣の中学生との交流活動を活かした教育活動
- ・児童の「よさ」や「励まし」にかかわる掲示物の作成 {今でもだいす木}
-----心の輪を広げよう-----
- ・板書の掲示物工夫づくりやキーワードの提示で、各クラス統一教育

★研究発表

1；研究の概要について

- ・すすんで挨拶することが苦手であり、相手の気持ちを考えることが力不足であることを認識し、豊かな心を持ち、かかわりのある、相手の立場に立って考えられる児童の育成

2；魅力ある授業づくりについて

- ・主体的に学習し、魅力ある資料に関心を持たせ、児童の思考を促す発問づくり

3；豊かな心を育む環境づくりについて

- ・学校、地域、家庭などと、かかわり合いを持たせ、それを活かした教育活動
- ・児童の「よさ」や「励まし」にかかわる掲示物の作成 {今でもだいす木}
-----心の輪を広げよう-----
- ・隣の中学生との交流活動

4；道徳教育の充実に向けて

- ・板書の掲示物工夫づくりで、各クラス統一教育
- ・キーワードの提示

■ まとめ

★道徳の教科化において

- ① 道徳性は人格の基盤であり、「豊かな心」だけでなく、「豊かな学力」や「健やかな体」の基盤ともなり、「生きる力」を育むものである。
- ② 組織の長（市長、校長、PTA 会長など）自らが関心を持ち、リーダーシップで決まる。
- ③ 学校だけの問題ではなく、地域、家庭、他学級とのかかわり合いが必要である。

★学校の授業において

- ① 自分の考えを深め、自己を見つめ、3回ミーティングさせ、他人の意見を聞き更に考え方を深めていき、全員に発表させる。また教え込みにならないようにする。
- ② ワークシート記入時に BGM を流し、疑似体験もさせてみるのが大事である。
- ③ ワークシートを3回使用するが、その都度に配布する。一挙に3枚は配布しないこと。
- ④ クライマックスの時間帯が取れるような時間配分ができること。「気高い」など抽象的な言葉はなるべく使わないこと。
- ⑤ 授業があやふやにならないように、ワークシートは校長にまで届くようにしており、朝礼の内容にもなっている。
- ⑥ 宿題として、道徳プリントに保護者の意見も書いてもらうようにしている。
- ⑦ 普段から地域の方々との協働が大切である。いじめにおいても「地区公開講座」で協力をいただいている。
- ⑧ 板書の掲示物工夫づくりで、各クラス統一教育。
- ⑨ 心の輪運動のような褒めるシステムづくりが必要。

★その他

- ① 「情けは人のためならず」のごとく他人のため、他人の良さ、善意に感謝できるようなことが必要ではないか。他人の欠点を指摘や発見することではなく、長所などを指摘するなど、褒め合うことが必要ではないかと思われた。
- ② 自分の意見を発表する活発さは素晴らしかったが、50分の時間内で中学生での3回にわたる発表は果たしてそれでよいのか。特に、グループ討論では各個人が発表しているだけで、他人の考え方を聞くムードではなかったように見える。グループ発表ができて初めて力がつくのではないかと思えた。